



# 平成23年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年4月8日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 中北製作所

コード番号 6496 URL <http://www.nakakita-s.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中北 健一

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務取締役・管理部門管理  
掌並びに経理部長 (氏名) 大平 文人

TEL 072-871-1331

四半期報告書提出予定日 平成23年4月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年5月期第3四半期の業績(平成22年6月1日～平成23年2月28日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年5月期第3四半期	16,346	△4.7	1,546	2.2	1,622	2.9	893	1.1
22年5月期第3四半期	17,149	△17.7	1,514	△31.7	1,576	△29.0	884	△4.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年5月期第3四半期	46.67	—
22年5月期第3四半期	46.17	—

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年5月期第3四半期	23,956	17,763	74.2	927.74
22年5月期	23,096	17,308	74.9	903.91

(参考) 自己資本 23年5月期第3四半期 17,763百万円 22年5月期 17,308百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年5月期	—	15.00	—	15.00	30.00
23年5月期	—	10.00	—	—	—
23年5月期 (予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年5月期の業績予想(平成22年6月1日～平成23年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,000	△6.3	1,650	△10.4	1,700	△9.6	950	△5.4	49.61

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】3ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年5月期3Q 19,164,000株 22年5月期 19,164,000株

② 期末自己株式数 23年5月期3Q 16,846株 22年5月期 15,067株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年5月期3Q 19,148,586株 22年5月期3Q 19,149,644株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは概ね終了しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記業績予想は、現時点において入手可能であり、かつ合理的と判断される情報に基づき作成したものであり、世界経済・為替変動等の様々な不確定要因により、実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。

なお、詳細は四半期決算短信(添付資料)2ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. その他の情報 .....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) セグメント情報 .....	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
4. 補足情報 .....	9
生産、受注及び販売の状況 .....	9

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間における世界経済は、中国をはじめとする新興国経済の成長に牽引される一方で、EU諸国における金融不安はギリシャに続いてアイルランドも支援を要請する事態となりました。また、期間の後半に至りエジプトでの反政府運動による政権交代をきっかけに北アフリカ・中東情勢に混迷が広がり、リビアでは内戦が激化しました。この影響で原油相場が高騰し、地政学的なリスクともあいまって回復基調にある景気の先行きの見通しは、さらに不透明な状況となってまいりました。

わが国経済も、政府の景気対策等が一巡し、需要の先食いによる反動や落ち込みが懸念され、他方では民間設備投資や雇用に関してはあまり改善がみられないなか、デフレの進行や為替での円高傾向の定着もあり、企業の国内生産や輸出に与える影響が大きく、先行きのわが国経済の見通しも、不透明さを増しました。

このような経営環境にあつて当社は、主要な販売先であります造船業界のみならず、陸上部門においてもガスタービン用バルブや原子力発電プラント関連の受注、修理やメンテナンス関連の部品注文の獲得にも注力し、積極的な顧客訪問により客先ニーズの掘り起こしに努めるとともに提案型の受注活動を展開いたしました。しかしながら、円高傾向の定着による受注環境の悪化や造船市況の低迷による影響は大きく、十分な受注を確保することはできませんでした。

この結果、当第3四半期累計期間における受注高は、12,668百万円(対前年同期比7.0%減)と前年同期に比べて956百万円下回りました。品種別では、自動調節弁5,019百万円、バタフライ弁4,126百万円、遠隔操作装置3,521百万円となり、金額ベースの対前年同期比では、それぞれ148百万円減、337百万円減、470百万円減でありました。

売上高では、生産が順調に推移したことや修理・メンテナンス関連部品の売上も寄与し、16,346百万円(対前年同期比4.7%減)となり比較的順調に推移いたしました。品種別では、自動調節弁5,852百万円、バタフライ弁5,541百万円、遠隔操作装置4,953百万円となり、すべて前年同期を下回る実績となりました。また、輸出関連の売上高も前年同期を約7億円下回る2,792百万円にとどまり、円高環境での受注悪化を裏付ける結果となり、当第3四半期累計期間末の受注残高は期首に比べて3,678百万円減の15,596百万円となりました。

利益面におきましては、経常利益で1,622百万円(対前年同期比2.9%増)、四半期純利益では893百万円(対前年同期比1.1%増)を計上し、経費削減効果もありいずれもわずかに前年同期実績を上回りました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べ860百万円増加の23,956百万円となりました。これは、売上債権が回収の進展によって419百万円減少したものの、現金及び預金が717百万円増加したこと、さらに有価証券が499百万円増加、棚卸資産が232百万円増加したこと等が主な要因であります。その一方、負債の部では、資産除去債務34百万円を計上し、また仕入債務が415百万円増加しました。

純資産の部では、四半期純利益による利益剰余金の増加が配当金の支払等を吸収し、結果的に454百万円の増加となりました。

当第3四半期累計期間のキャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは税引前四半期純利益が1,567百万円、売上債権の減少が419百万円、仕入債務の増加が415百万円となり、棚卸資産の232百万円増加や法人税等の支払550百万円を差し引いても1,671百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、主として定期預金の減少により60百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローにおいては、主として配当金の支払により444百万円の支出となりました。

以上により、現金及び現金同等物は期首に比較して1,287百万円の増加となり、当第3四半期累計期間末残高は3,156百万円となりました。

### (3) 業績予想に関する定性的情報

平成23年5月期の業績予想は、平成23年1月5日公表のものに変更無く、売上高210億円、営業利益16億5千万円、経常利益17億円、当期純利益9億5千万円の見通しとさせていただきます。国内外の経済情勢は、造船市況・受注の低迷や価格競争の激化等もあり、ますます不透明な状況になってきておりますが、効率的な生産と原価低減に注力することにより年間計画の達成を目指す予定であります。

なお、平成23年3月11日に発生しました「東北地方太平洋沖地震」による業績への影響は、現在調査中ではありませんが、現時点において認識している限り、重大な影響は発生していません。

今後、業績に重大な影響を及ぼす事象が確認された場合は速やかに開示いたします。

## 2. その他の情報

### (1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 1. 簡便な会計処理

##### ① 棚卸資産の評価方法

当第3四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

##### ② 固定資産の減価償却費の算定方法

事業年度に係る減価償却費の額を按分して算定する方法によっております。

##### ③ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

#### 2. 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

##### ① 税金費用の計算

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

### (2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益は3,821千円、税引前四半期純利益は10,412千円減少しております。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年2月28日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,556,679	3,838,858
受取手形及び売掛金	8,603,495	9,022,809
有価証券	499,704	—
商品及び製品	915,310	634,947
仕掛品	1,321,570	1,316,192
原材料及び貯蔵品	1,459,167	1,512,712
その他	982,955	812,853
貸倒引当金	△43,390	△45,740
流動資産合計	18,295,494	17,092,634
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,549,166	1,549,166
その他(純額)	2,294,498	2,536,360
有形固定資産合計	3,843,665	4,085,526
無形固定資産	196,513	256,856
投資その他の資産		
投資有価証券	1,259,762	1,240,002
その他	367,875	427,906
貸倒引当金	△6,352	△6,510
投資その他の資産合計	1,621,285	1,661,398
固定資産合計	5,661,464	6,003,782
資産合計	23,956,958	23,096,416
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	167,085	258,354
買掛金	2,812,365	2,305,315
賞与引当金	128,500	252,000
役員賞与引当金	—	20,500
未払法人税等	359,357	236,287
その他	507,432	434,712
流動負債合計	3,974,741	3,507,170
固定負債		
長期借入金	1,870,000	1,870,000
退職給付引当金	236,842	314,643
役員退職慰労引当金	48,730	66,710
その他	63,151	29,045
固定負債合計	2,218,723	2,280,398
負債合計	6,193,465	5,787,569

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年2月28日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,150,000	1,150,000
資本剰余金	1,479,586	1,479,586
利益剰余金	15,079,430	14,664,444
自己株式	△8,272	△7,338
株主資本合計	17,700,745	17,286,692
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	62,747	22,154
評価・換算差額等合計	62,747	22,154
純資産合計	17,763,492	17,308,847
負債純資産合計	23,956,958	23,096,416

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年6月1日 至平成22年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年6月1日 至平成23年2月28日)
売上高	17,149,865	16,346,860
売上原価	14,253,517	13,471,259
売上総利益	2,896,347	2,875,600
販売費及び一般管理費	1,382,264	1,328,937
営業利益	1,514,082	1,546,662
営業外収益		
受取利息及び配当金	37,869	41,758
不動産賃貸料	49,486	51,216
為替差益	—	3,765
雑収入	14,537	15,661
営業外収益合計	101,893	112,401
営業外費用		
支払利息	21,331	15,322
たな卸資産処分損	—	20,296
為替差損	999	—
雑損失	17,358	781
営業外費用合計	39,689	36,401
経常利益	1,576,287	1,622,662
特別利益		
貸倒引当金戻入額	12,238	2,508
特別利益合計	12,238	2,508
特別損失		
投資有価証券評価損	51,353	51,497
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	6,591
特別損失合計	51,353	58,088
税引前四半期純利益	1,537,172	1,567,082
法人税等	653,085	673,375
四半期純利益	884,087	893,707



(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成21年6月1日 至 平成22年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自 平成22年6月1日 至 平成23年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	1,537,172	1,567,082
減価償却費	361,364	363,774
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	6,591
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△12,238	△2,508
賞与引当金の増減額(△は減少)	△198,000	△123,500
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	29,350	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△88,853	△77,800
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△7,270	△17,980
受取利息及び受取配当金	△37,869	△41,758
支払利息	21,331	15,322
有形固定資産除却損	16,159	621
投資有価証券評価損益(△は益)	51,353	51,497
売上債権の増減額(△は増加)	2,287,667	419,313
たな卸資産の増減額(△は増加)	599,339	△232,195
前渡金の増減額(△は増加)	9,000	9,000
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,058,214	415,781
その他	△47,357	△162,700
小計	3,462,933	2,190,542
利息及び配当金の受取額	36,412	41,394
利息の支払額	△14,637	△9,966
法人税等の支払額	△1,212,880	△550,305
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,271,828	1,671,663
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	912,000	70,000
投資有価証券の取得による支出	△450	△4,450
投資有価証券の売却による収入	—	2,000
有価証券の取得による支出	△498,013	△1,000,000
有価証券の償還による収入	—	1,000,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	△320,196	△39,202
敷金及び保証金の回収による収入	840	—
保険積立金の払戻による収入	—	49,053
その他	50,919	△16,871
投資活動によるキャッシュ・フロー	145,098	60,529
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	300,000	—
短期借入金の返済による支出	△2,000,000	—
配当金の支払額	△508,664	△443,734
自己株式の取得による支出	△13	△933
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,208,678	△444,668
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	208,249	1,287,525
現金及び現金同等物の期首残高	881,413	1,868,858
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,089,662	3,156,384

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

当社は、バルブ及び遠隔操作装置製造・販売事業の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

(追加情報)

第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

#### 4. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

##### 1. 生産実績

(単位 千円)

期 別	22年5月期第3四半期 (21/6~22/2)		23年5月期第3四半期 (22/6~23/2)		22年5月期 (21/6~22/5)	
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	金 額	構成比%
自動調節弁	5,797,076	35.1	5,909,058	35.8	7,658,851	35.5
バタフライ弁	5,548,237	33.6	5,602,389	33.9	7,257,268	33.6
遠隔操作装置	5,174,505	31.3	5,009,634	30.3	6,660,933	30.9
合 計	16,519,818	100.0	16,521,081	100.0	21,577,052	100.0

##### 2. 受注状況

受注高

(単位 千円)

期 別	22年5月期第3四半期 (21/6~22/2)		23年5月期第3四半期 (22/6~23/2)		22年5月期 (21/6~22/5)	
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	金 額	構成比%
自動調節弁	5,168,628	37.9	5,019,843	39.6	7,156,110	37.7
バタフライ弁	4,464,024	32.8	4,126,831	32.6	6,531,394	34.4
遠隔操作装置	3,992,857	29.3	3,521,918	27.8	5,315,491	27.9
合 計	13,625,509	100.0	12,668,592	100.0	19,002,995	100.0

受注残高

(単位 千円)

期 別	22年5月期第3四半期 (22/2)		23年5月期第3四半期 (23/2)		22年5月期 (22/5)	
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	金 額	構成比%
自動調節弁	4,718,964	24.6	3,933,512	25.2	4,765,845	24.7
バタフライ弁	7,718,537	40.3	6,599,342	42.3	8,014,097	41.6
遠隔操作装置	6,733,120	35.1	5,063,740	32.5	6,494,920	33.7
合 計	19,170,621	100.0	15,596,594	100.0	19,274,862	100.0

##### 3. 販売実績

(単位 千円)

期 別	22年5月期第3四半期 (21/6~22/2)		23年5月期第3四半期 (22/6~23/2)		22年5月期 (21/6~22/5)	
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	金 額	構成比%
自動調節弁	6,019,603	35.1	5,852,176	35.8	7,960,204	35.5
バタフライ弁	5,762,355	33.6	5,541,586	33.9	7,534,165	33.6
遠隔操作装置	5,367,907	31.3	4,953,098	30.3	6,928,741	30.9
合 計	17,149,865	100.0	16,346,860	100.0	22,423,110	100.0
うち輸出高	3,491,607	20.4	2,792,445	17.1	4,449,218	19.8